第 ８６ 号

平成２４年６月１日発行

寿楽院寺報

〒369-1245 深谷市荒川９８３
高野山真言宗 荒澤山 寿 楽 院
住 職 髙 橋 敬 行
電話 048-584-0302

新盆を迎える

お盆

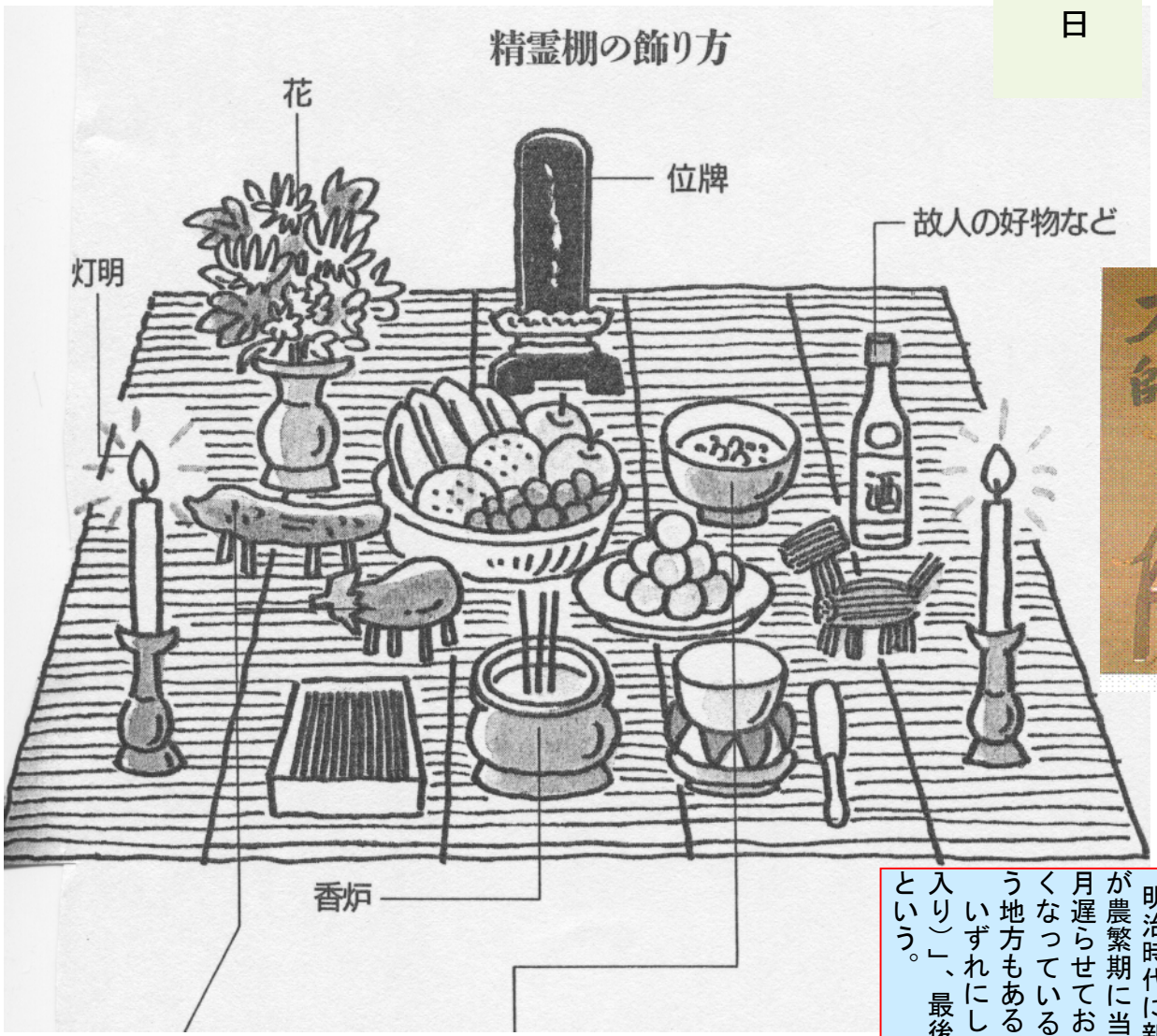
旧盆 七月十三～十六（十五）日
月遅れ盆 八月十三～十六（十五）日

苦しんでいるご先祖の霊を慰め、供養する

「お盆」は、さまざまな仏教の年中行事のなかでも最も広く親しまれ、日本人の生活に根づいている行事のひとつである。正式には「孟蘭盆会（うらぼんえ）」という。

「孟蘭盆」とは、インドの古い言葉であるサンスクリット語（梵語）で逆さ吊りの苦痛を意味するウラバンナに漢字を当てたもので、もともと『孟蘭盆経』というお経に出てくる仏説に由来するものという。

釈迦の高弟のひとりである目連（もくれん）は、地獄の餓鬼道に堕ちて飢えと渇きに苦しんでいる母を見かね、釈迦の教えに従って、多くの僧を招き、さまざまなご馳走を供えて供養したところ、母を地獄から救い出すことができたという。この話から、祖先の霊をわが家に迎えて供養し、その功徳によって苦しみの世界から救い出し、浄土に送りかえす孟蘭盆会の行事が生まれたといわれる。



日本では、「先祖の霊が帰る」という古くからの民間信仰と、仏教の孟蘭盆会とが融合して、現在のお盆のかたちになったと考えられている。

古くは七月十五日を中心に行われていたが、先祖に長く逗留してほしいという気持ちから期日が延び、七月十三日から十六日（地方によっては十五日）までとするのが一般的。

明治時代に新暦（太陽暦）が採用され、七月が農繁期に当たるようになってからは、一か月遅らせてお盆の行事を行う「月遅れ盆」が多くなっている。旧暦の七月十三～十六日に行う地方もある。

いずれにしても最初の日を「迎え盆（お盆の入り）」、最後の日を「送り盆（お盆の明け）」という。

キュウリの馬、ナスの牛

キュウリとナスに苧殻（おがら）を刺して馬と牛をつくる。先祖の霊が馬に乗って早く帰ってきて、牛に乗ってゆっくりあの世に戻っていくようにとの願いを込めたもの。

水の子

ナスをさいの目に刻み、洗い米を混ぜて、清水を満たした器に入れて供える。祀る人のない無縁仏（むえんぶつ）や餓鬼への供え物と考えられている。